

平成25年度（2013年度）
学校関係者評価委員会報告書

2014年10月

学校法人 新潟高度情報学園

新潟高度情報専門学校

会議議事録

会議名	学校関係者委員会
開催日時	平成26年10月29日（金曜日） 16：00～18：00（2h）
場 所	本校 会議室
出席者	<p>① 委員 守橋 主、 後藤 彰宏（計2名）</p> <p>② 学校 学校長、 教務課長(3名) (参加者合計6名)</p>
議題等	<p>1 校長挨拶及び趣旨説明 石澤学校長</p> <p>2 委員紹介 新委員紹介</p> <p>3 自己評価概要説明 自己評価項目及び基準、これまでの課題と改善点の要約説明。 25年度教務活動を中心に評価。</p> <p>4 意見交換 説明についての質疑応答。 詳細は、別紙のとおり。</p> <p>閉 会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

別紙

I 重点目標について

重点目標①について

産学連携、地域との連携強化を図る。

当校の学則にあり目的である、「技術者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身につけた人間性豊かな技術者および、人材を育成する」を強力に実現するため、協力企業と連携することで、学校での学びと並び、最前線で活躍される方たちより技術的指導・実践的なアドバイス、顧客と関係性・折衝・矜持など、机上では理解が及ばない真剣さ、仕事・職業人としての大切なことを、実践をもって理解できる環境を当学生に提供する。

また、学校・学生が社会貢献すること、地域とコミュニケーションをとること、更には人との関わりの中で得た様々な体験が人間を成長させる機会として、環境や仕組みを用意し学生らに参加させる。

重点目標②について

カリキュラムの充実を図る。また、職業実践専門課程の認可を受ける。

情報業界として5年先、10年先を見通し将来構想を検討することも大切であるが、在籍する学生、入学希望の学生に対し、学生等が卒業する2～4年後を想定し、社会に必要とされる知識や開発ツールに頼らず基本となるプログラミング技術、システム・ゲーム制作のノウハウを教授することを指導方針として重視。社会に出て、役立つ事柄を指導する。また、資格取得、人間教育を常に意識し、修正しながら新潟に貢献できる人材、日本の情報技術の発展に寄与できる人材の育成を目的としている。

新潟高度情報専門学校の目指す方向性から、文部科学省が推し進める職業実践専門課程の創設に伴い、次年度の学生募集学科についてその認可を受けるべく目標とする。

II 各評価項目について

1 教育理念・目標

学校評価委員会・教育課程編成委員会の各委員の方々との協力関係を強化し、今後も各課題に取り組み、また、問題点を掘り下げ、学校の対応できる幅を広げていく。

在校生、その保護者に向けた学校情報を整備・提供することを検討する。

2 学校運営

運営における、制度・仕組みを整備されており、則って行動している。

職業実践専門課程、単位制といった新たな教育課程を導入することで、規則の整備を進め、教職員の共通理解を進めなければならない。

現行使用している成績処理システム等の改修を進め、合わせて、セキュリティ管理・運用の面での利用内規の整備を進める。

【 質問 】

校内の情報セキュリティを構築するうえで、個人の意識改変・教育・啓蒙活動および取組の対象として学生・非常勤まで多岐に対応する必要がある。企業での取り組み方と管理方法等は、どういった方法をとっているかお教え願いたい。

【 応答 】

Windows サーバ系OSを使用し、ドメイン管理をすることで運用やセキュリティ設定の効率が良く・対応時間も短くなる。学校でも取り入れるとよい。

3 教育活動

連携企業の協力により、職業実践専門課程として実践的な授業科目を取り入れつつあるが、業界によって対応できる範囲が異なる。今後、授業として実施・評価及び学生へのフィードバック方法、授業外での活動を検討し、教育内容を深めたい。

教員も新たな知識・技術の習得および指導方法について積極的に進め必要がある。

情報系学科において、協力企業よりインターンシップとなる実践的な授業を準備する。

ゲーム系においては、インターネットを活用しての職業教育の実践方法を具体化する。また、ゲームという多様な価値基準について偏らない様、評価付けをルール化したい。

4 学習成果動

卒業生との関係性が弱いと感じられる学科もあり、教育連携を踏まえ、在学生の対外活動のアピールや学校の動向などを卒業生向けに発信し、卒業生からの声が集まり易い環境を作ることを検討。更に、卒業生が在籍する企業との連携を強化し、カリキュラムに反映する様、情報収集する。

学生指導において、教務課・学校が学生に対して共通理解し、クラスにおいて、学科内で、学校行事等の活動を通じてコミュニケーションを身にさせさせる。周囲との接点を多く持つことで無駄なドロップアウトを防ぐ。

検定試験において、組織として対策を施し、多くの合格者が輩出されるように計画していきたい。

5 学習支援

学生等が自分の目的の為、自発的に放課後に学習・研究を進められる様な環境を用意し学習成果につながる環境支援を検討している。

チューター制度により、在校生間、学年・学科を跨いでのコミュニケーションが取れる様、また、新入生の学習効果の向上、グループワークの活発化、校外活動等にもつなげるため、参加し易く、また効果の狙えるよう制度化・方法を見直すことを検討する。

6 教育環境

概ね良好。

学生等が防災に興味を持てる様に、概ねなく、きっかけづくりになるような手段を検討する。

10 社会貢献・地域貢献

地域に根差した講座を検討する。